

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

俳諧人物伝

Ⅱ 講座概要

俳諧は人を熱中させるものがある。芭蕉も「俳魔」といつている。芥川龍之介の漢詩にも「詩魔禅室を窺がう」という一節がある。明治を迎える頃に越後高田藩の武士で井上剌三という人物は、武士を捨てて、ふらりと伊奈にやってきた。信州伊奈谷駒ヶ根で乞食となって三十年間もここで過ごした。井上井月と名乗りよい句をたくさん残している。学問者芸に通じ、村の人が食や酒を振舞うとその礼に立派な書を残した。こうした人物が俳人にはたくさんいる。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 9/5 (土)	明智光秀と豊臣秀吉	信長を殺害したのは一体誰だったのか。俳諧で知る犯人は。
第2回		細川幽斎と藤田織部	どちらも茶人で戦国武将。この二人はなかなかの人物であった。
第3回	2009/ 9/7 (月)	芭蕉と蝉吟	せっかくの立身出世の道が閉ざされて、さてそれからどうしたのか。
第4回		蕪村と田村竹田	二人とも絵師であったが、その生き方が実に面白い。画工狂人か俳人か。
第5回	2009/ 9/21 (月)	宝井其角と赤穂浪士	大高源吾は浅野匠守の家臣で其角宗匠に俳諧を教わった。そして二人の再会は。
第6回		服部嵐雪と服部土芳	服部半蔵は伊賀の忍者頭。家康に召抱えられてお庭番となったが、嵐雪と土芳は。
第7回	2009/ 9/28 (月)	広瀬惟然と斎部路通	路通は乞食をしていたが芭蕉の弟子となった。惟然は武士であったが乞食坊主となった。
第8回		漱石と子規	二人は無二の親友であったが、若い頃の生活は、とにかく破天荒な面白い人物達。

※各日 14:40~15:25、15:30~16:15

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

アメリカ経済をみる眼～日本が学ぶもの～

Ⅱ 講座概要

人口3億人を超え、世界GDPの2割を占める超大国・人種社会アメリカ。2006年夏に始まる一連の金融危機は日本を含め「世界同時不況」を巻き起こしました。大不況のなか救世主のごとく登場したオバマ大統領は、矢継ぎ早に大型の財政出動を展開し、世界の注目を集めています。

本講座（全4回）では、アメリカ経済や財政の時事問題を扱いながら、政府による対応策や仕組みを紹介し、日本では知りえないアメリカ経済社会の本質や謎に迫ります。その中から日本が学ぶべき示唆も探り出します。（90分×4回）

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 9/6 (日)	黒人初オバマ大統領の「イリノイ時代」に迫る	アメリカ史上初となる黒人の大統領オバマの政治家としての原点はイリノイ州、シカゴ市にあり、イリノイ州の議員時代の政治活動はあまり知られていません。第1回は、オバマの「イリノイ時代」に焦点を当て、彼の政治理念や活動歴などを広くレビューします。
第2回	2009/ 9/20 (日)	アメリカは本当に「小さな政府」なの？	アメリカは1980年代以後、市場経済を重視する思想に傾注し、「小さな政府」路線を疾走し、日本にも「規制緩和」「民営化」という潮流をもたらしました。第2回は、「小さな政府」を掲げたレーガン政権の経済政策に注目し、その知られざる本義に迫ります。
第3回	2009/ 9/26 (土)	シカゴ市民は「無限責任で」借金を返済している？	州(State)が独立した立法権をもつアメリカ。建国以来、州単位の分権社会を堅持するアメリカは、わが国での地方分権改革(道州制)の論議に有益なヒントを与えてくれます。第3回は、アメリカの地方財政をテーマに学びます。特に、シカゴ市を事例にして地方自治体の借金返済の仕組み(地方債ファイナンス)に注目し、納税者によるチェック・アンド・バランスのあり方を考えます。
第4回	2009/ 10/3 (土)	サブプライム問題、GM破綻から日本が学ぶべきもの	住宅バブルの崩壊とともに発覚した「サブプライム・ローン」という金融問題。ウォール街の際限なき金融商品開発がマネー経済を膨張、破裂させました。そしてGMの経営破綻。第4回は、「20世紀アメリカ経済」を支えた金融システムがなぜ崩壊したのかを考えます。「世界恐慌」から「リーマンショック」までの歴史的文脈の中でアメリカ経済の強さ、弱さの両面をグローバルな視点から検証し、日本が学ぶべきものを探ります。

※各日 13:00～14:30

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

武道の世界

Ⅱ 講座概要

「武道」という言葉、日本人ならば誰でも知っていると思います。そしてそれが我が国の伝統文化であることについて異論はないでしょう。でも、その具体的な内容については、いまひとつはつきりしないのではないのでしょうか？ この講座では、武道に関するさまざまなトピックを取り上げ、武道についての理解を深めてもらいたいと思っています。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 9/11 (金)	武道ってなに？	武道の「武」の字を分解してみると・・・。用語の解釈から意味の変遷、類似の言葉などについて学んでみましょう。
第2回		がんばれ武道少年	剣道、柔道、空手など、各地に少年指導をする道場などがあります。子どもたちや指導者、そして保護者のみなさんの奮闘ぶりをお伝えします。
第3回	2009/ 9/18 (金)	昇段審査は厳しい	特に剣道の昇段審査について、経験を踏まえてお話します。
第4回		武道とスポーツ	剣道、柔道など競技としてたくさんの人々に愛好されています。柔道はオリンピック種目にもなっています。スポーツとの違いなどについて考えてみましょう。
第5回	2009/ 9/25 (金)	武道歴史散歩	我が国の歴史のなかで少しずつ形作られてきた武道。特に剣道の歴史やゆかりの史跡などについて紹介します。
第6回		武道は日本だけのもの？	韓国の武芸書や韓国における剣道の取り組みについて紹介します。
第7回	2009/ 10/2 (金)	生涯現役！	生涯にわたって修行を続ける人々がたくさんいます。大先輩たちとの稽古経験などをお話します。
第8回		学校教育と武道について考えよう	中学校教育において武道が必修化になります。より良い武道教育のあり方とは・・・？

※各日 14:40～15:25、15:30～16:15

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本語のすがたをとらえる—身近なことば再考—

Ⅱ 講座概要

ふだん何気なく触れている日本語という言語を、新鮮な観察対象として、あらためて取り上げていきたい。日本語の音や文法のしくみについて少し考えてみると、知っているようで知らないことばのしくみが見えてくる。

助詞やアクセント、ら抜き言葉等の個別のトピックについての観察を掘り下げる1～7と、日本語の特徴の整理を重視した内容の8とで構成する。ただし8も、具体的な事例の検討を中心とする。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 9/17 (木)	助詞パズル	日本語の名詞の後ろには、「を」や「も」、「ばかり」といった数種類の助詞がつく。では、どれくらいまで助詞をつなげられるのか、そこにはどんなルールがあるのか、といった問題を取り上げ、ことばを観察する作業に取り組む。
第2回		「タヌキウドン」とアクセント	日本語のアクセントについて、その役割やきまりを考えていく。特に、「タヌキウドン」「ソライロ」のような複合語のアクセントについて観察を行い、日本語のアクセントが持つルールをとらえる。
第3回	2009/ 10/15 (木)	「自分」と「そいつ」、 「そいつ」と「あいつ」	「自分」や「そいつ」のような表現がみせるふるまいのおもしろさについて、いろいろな例を確認しながら観察していく。「自分」が指し示す内容の決まり方や、「そいつ」と「あいつ」の違いなどをとらえ、分析する。
第4回		「ホットドック」と 「人間ドック」	「二段ベット」や「ホットドック」のように、本来原語では有声子音であるものを無声子音で発音する場合がある。類似の例を検討しながら、日本語の音のパターンを考える。
第5回	2009/ 11/19 (木)	「コップが割れてる」と 「犬が走ってる」	同じ「～ている」のついた形でも、「コップが割れている」と「犬が走っている」では、表される状況に大きな違いがある。動詞のタイプを整理しながら、デキゴトや状況を日本語がどう捉えているのかを考えていく。
第6回		ら抜き言葉、さ入れ言葉	日本語の乱れとして扱われることが多い「ら抜き言葉」も、その生まれにはそれなりの事情がある。言葉の変化の問題を、ごく身近な例を通して考える。
第7回	2009/ 12/17 (木)	「ん」(撥音)と 「っ」(促音)	仮名で書けば「ん」一文字となる撥音も、実際の音声の上では環境により[n]だけでなく[m]等の音でも現れる。文字ではなく音声のレベルで日本語を観察するための練習に取り組む。
第8回		日本語の特徴を整理する	日本語では「健太がすいかを食べる」が当たり前で、「ひまわりが咲く」も当たり前。しかし世界の言語ではこれが当たり前とならないケースがあることなど、言語一般から見た日本語の姿を考える。

※各日 14:40～15:25、15:30～16:15

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

旅と日本人

Ⅱ 講座概要

古くから旅をめぐる話題は尽きない。遠い別世界にあこがれて旅立つ人もいれば、よく知られた近い土地に出かけて楽しむ人も多い。日本古代を中心に、旅にまつわる記録・物語をいくつか取り上げ、そのさわりを読み、先人たちのさまざまな旅を垣間見てみたい。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 10/9 (金)	国司たちの憂鬱	律令制国家の地方行政官として任国に赴任した国司たち。都から遠く離れ、着任後まもなく病に伏す者もいた。彼らは仕事の合間に、連れだって景勝地巡りや狩猟に気を紛らす。
第2回		商人のふしぎな取引	奈良時代には、都の東西市や難波の市、各地の市・港などを結ぶ活発な交易がなされていた。都と北陸の港町を行き来していた商人が旅の途中で鬼につけ回されるが……。
第3回	2009/ 10/16 (金)	道長の聖地参詣	平安時代の半ば、摂関政治で権勢を誇った藤原道長。しかし、そんな彼も、同時代の人々と同じく、大和春日社、吉野金峯山などの聖地に参詣していた。
第4回		物語を求める京上り	更級日記の作者、菅原孝標の女（むすめ）。父の任地の上総国で姉や継母から源氏物語などのことを聞いて育った。物語の多くある京へ上りたいと熱望するなか、彼女が十三歳のころ、父の任期が切れて上京のチャンスをつかむ。
第5回	2009/ 10/23 (金)	渡宋の僧とその母	宋へ渡った成尋阿闍梨からの便りが、なかなか老母のもとに届かない。息子を日本で待つ母の嘆きが歌となる。
第6回		義経の参陣と征戦	奥州平泉に身を寄せていた源義経が、兄の頼朝のもとに駆けつけ、平氏とのいくさに加わる。義経たちの活躍が始まった。
第7回	2009/ 10/30 (金)	宣長の和名所めぐり	国学者として名高い本居宣長。弟子たちと一緒に伊勢の松坂から吉野の花見に出かけ、大和の古寺や史蹟をつぶさに観察して記録を残した。彼の洞察力が光る。
第8回		渋沢篤太夫の渡欧	渋沢篤太夫——後に日本資本主義の父といわれるようになった渋沢栄一の幕臣時代の名前である。江戸幕府十五代將軍徳川慶喜に命じられ、パリ万博使節団に加わってヨーロッパに渡る。

※各日 14:40~15:25、15:30~16:15

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本人と「宗教」

Ⅱ 講座概要

日本におけるいくつかの特徴的な宗教伝統をとりあげ、歴史的文献や資料をもとにコンパクトに解説しながら日本人の豊かな精神世界に触れていきます。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 10/12 (月)	日本人の宗教観	日本人の宗教についての考え方はどのようにできあがっていったかを歴史を振り返りながら、現代日本人の宗教観について考察していきます。
第2回		アイヌの伝統と自然観	アイヌ民族の伝統では自然と人間の関係はどのように捉えられてきたのかを資料をもとに学びます。
第3回	2009/ 10/19 (月)	沖縄の世界遺産にみる 沖縄の伝統と心	沖縄の世界遺産『琉球王国のグスク及び関連遺産群』を通して沖縄の伝統と精神世界について解説します。
第4回		古代仏教の成立	日本に仏教が伝えられた歴史をたどりながらそれがどのように定着し、日本の宗教的土壌を形成していったのかを空海を中心に上げながら学んでいきます。
第5回	2009/ 10/26 (月)	「鎌倉新仏教」と 民衆1：法然・親鸞	「鎌倉新仏教」と呼ばれる中世の新しい仏教運動がどのようにして起こり、なぜ民衆の心を捉えたのかを祖師たちの書いた文献を読みながら考えていきます。
第6回		「鎌倉新仏教」と 民衆2：一遍	「鎌倉新仏教」と呼ばれる中世の新しい仏教運動がどのようにして起こり、なぜ民衆の心を捉えたのかを祖師たちの書いた文献を読みながら考えていきます。
第7回	2009/ 11/2 (月)	「鎌倉新仏教」と 民衆3：日蓮	「鎌倉新仏教」と呼ばれる中世の新しい仏教運動がどのようにして起こり、なぜ民衆の心を捉えたのかを祖師たちの書いた文献を読みながら考えていきます。
第8回		「カクレキリシタン」 の信仰の世界	江戸時代にキリスト教の禁教令が出された長い間潜伏しながら信仰をたもち続けた「カクレキリシタン」について学んでいきます。

※各日 13:00~13:45、13:50~14:35

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本人の倫理観—近代日本の文化と倫理観を考える—

Ⅱ 講座概要

まず著名な二人の西洋知識人からみた日本の文化、倫理観を問題として提起します。以後、明治以降の近代の時代を強烈な問題意識をもって生きぬいた文学者、思想家、知識人の個性あふれる魅力的な生きざまを通して近代倫理の諸相を照射してみます。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 10/13 (火)	恥の倫理	西洋の文化は「罪の文化」で日本は「恥の文化」だといったのは、アメリカの文化人類学者ルース・ベネディクトです（『菊と刀』）。恥の文化とは何か、それはどのような日本人の倫理的構造があるのかを考えてみます。
第2回		融合の倫理	明治日本は近代化のために熱心に西洋文化を受容しましたが、そのとき、西洋文化は内側から「衰退」しはじめていました。文化や思想を受け入れる日本独特の受容の仕方を解明しながら、日本固有の「受け入れの倫理」といったものを考えます。ドイツの哲学者K. レーヴィットの日本人論を参考にします。
第3回	2009/ 10/27 (火)	純粹経験の倫理①	西田幾多郎は『善の研究』で有名な哲学者です。『善の研究』は西田 41 歳の時の作品ですが、その完成までの若き時代の西田は、凄まじい人生との苦闘を演じました。その経験の過程で獲得した西田の厳しい倫理感を考えてみます。
第4回		純粹経験の倫理②	西田の『善の研究』(明 44)の中の主題は「純粹経験」という考え方です。青年時代の苦闘の末に到達した思想的境地「純粹経験」は、「天真爛漫なる嬰兒の直観」といわれますが、厳しい西洋哲学批判を秘めた西田独特の思想的立場です。
第5回	2009/ 11/10 (火)	文明論と倫理	福沢諭吉の若き時代の反封建的意識から、明六社への参加と活動、維新政府への批判、対外的危機意識などを、著作とともにたどりながら、福沢の「無気無力の愚民」を克服しようとする啓蒙主義者としての活動と倫理意識を考えます。
第6回		求道の倫理	倉田百三は明治から大正期を生きた、『出家とその弟子』や『愛と認識との出発』で有名な文学者・宗教家です。倉田の生涯を規定しているのは、「愛」と「宗教」と「病気」です。倉田が最後に神秘的生命主義にたどり着くまでの生の軌跡と倫理を考えます。
第7回	2009/ 11/24 (火)	「人間」の倫理	和辻哲郎は近代日本の倫理学研究の第一人者です。彼の名著『人間の学としての倫理学』を取り上げて、「人」「人間」「倫」「理」を分析することによって、「人間（ジンカン）の倫理学」を提示した和辻倫理学の独特な内容を考えてみます。
第8回		西洋倫理との比較	日本人の倫理観には、絶対的な価値規準がなく、したがって、「人間(人類)として何をなすべきか」を問うような「普遍的道德」が存在しない。普遍的道德を提起したカント倫理学と比較して、倫理的価値の「絶対的」と「相対的」という問題を考えてみます。

※各日 13:00~13:45、13:50~14:35

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本人と国際協力

Ⅱ 講座概要

国際協力というと自分たちの生活には疎遠だと考えがちであるが、私たち日本人の生活と世界の現状は切っても切り離せない状況にある。自給率が非常に低く、輸入に頼って生活している日本にとって、世界の国々の問題は私たちの問題であるといっても過言ではない。それ以上に世界をリードする国として、困っている国々を人々を放っておくことはできない。本シリーズでは、世界の現状を理解した上で、日本が実際に行っている活動を考察し、実際に私たちが身近にできる活動を考えていく。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 11/6 (金)	世界の現状	世界中の国々で起きている紛争、内戦、難民、貧困等を取り上げ、その現状が及ぼしている人々の暮らしについて考える。
第2回		私たちの暮らしから見る世界の貧困	私たちの暮らしは、ひと・もの・情報の移動が容易となり、グローバル化の名の下で世界の国々と切っても切り離せない状況にある。世界の人々の暮らしと私たちの暮らしがいかにつながりあって、影響しあっているのか考える。
第3回	2009/ 11/13 (金)	貧困の原因と世界の取り組み	世界の国々が直面している問題の原因を探り、先進国、国連をはじめとする世界の国々がそれらの問題に対して取り組んでいるのかを考える。
第4回		国家としての国際協力	日本が行っている国際協力について検討していく。日本では外務省が中心となって世界の国々への援助活動を実施している。活動の実態と今後のあり方について考察する。
第5回	2009/ 11/20 (金)	草の根の国際協力	日本における NGO 活動は 1970 年代のインドシナ難民の受け入れを機に盛んに行われてきている。しかしながら、その活動規模は欧米諸国の NGO と比較すると小規模であり、ボランティアベースであることを否定できない。草の根の活動の実態と今後のあり方について考察する。
第6回		ボランティアによる国際協力	阪神淡路大震災を機にボランティア活動が見直され、NPO 法が制定され、「ボランティア活動」そのものが大きな変化を遂げた。現在、ボランティアに参加する人は増加傾向にあるものの、国際協力分野でのボランティア活動には費用や時間、専門性等、参加者の負担が大きい為、参加者が多いとは言えない。ボランティアレベルの活動の実態と今後のあり方について考察する。
第7回	2009/ 11/27 (金)	国際協力と開発	国家レベルにおいても、草の根レベルにおいても国際協力を行う場合、国際協力を行う国の文化や習慣が持ち込まれる事が多々ある。また、その事業そのものが開発事業であるケースもある。他国からの支援を求めながらも、それらの支援によって社会が変わるといふ負わなければならない途上国の現状を考える。
第8回		今すぐできる国際協力	身近にできる国際協力の一端を担う活動を紹介するとともに、新たに国際協力につながる活動を考える。

※各日 13:00~13:45、13:50~14:35

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本の学校—今と昔—

Ⅱ 講座概要

いま、私たちを取りまく環境は大きく変わってきています。かつて「まなびや」と呼ばれ、はしらに落書きをしていた木造校舎も、いつの間にか鉄筋校舎に建て替えられ、今ではインターネットで授業を受けることも可能な時代となりました。いつでもどこでも誰でもその気にさえなれば学べる社会、そんな生涯学習社会はもうすぐです。本シリーズではプラチナ世代からティーンネイジ世代までの学校の変遷を概観することで、世代を超えたコミュニケーションの可能性を提供します。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 11/9 (月)	庶民の学校から学ぼう	江戸時代、庶民の教育は基本的に民間まかせでありました。ここでは師匠が個別に指導する寺子屋での学習について学びます。今日の地域における私たちの居場所を考えるためにも示唆に富む内容です。
第2回		学校の机と黒板について考えよう	明治時代、政府は日本の近代化をはかり教育に力を注ぎました。ここでは私たちになじみの深い、学校机や椅子、黒板など学校に取り入れられていく経緯について学びます。昨今の学級崩壊について見直す機会になるかもしれません。
第3回	2009/ 11/16 (月)	昔の教科書を読み直そう	意外と読む機会のない国定教科書の内容を抜粋し、当時の子どもたちがどのような教科書を使っていたのか学びます。今の子どもたちが使っている教科書と比べてみたら話題が広がるかもしれません。
第4回		青空教室から学ぼう	第二次世界大戦直後、教室なんてなくても子どもたちは学んでいました。校舎も家も教科書もない青空の下で行われていた学習について学びます。人間の学習の在るべき姿について考えさせられます。
第5回	2009/ 11/30 (月)	学力とは何か考えよう	今日、日本の学校では、能力主義時代におけるテスト学力ではなく、生きる力の育成が目指されています。ここでは学力とは何か改めて一緒に考えてみたいと思います。
第6回		理想の教師像の変遷を学ぼう	金八先生からごくせんに至るまで、教師ドラマにおける理想の教師像は時代とともに大きく変化しています。ここでは教師ドラマから理想の教師の変遷を学びます。
第7回	2009/ 12/7 (月)	情報機器を使った学習の可能性について考えよう?	今日の学校では、パソコンなどの情報機器を使った授業もめずらしいことではなくなりました。ここではいくつか授業例をみながら、情報機器を使った学習の可能性について考えます。
第8回		ネットのなかの学校を考える	時代は進み、学校の中にパソコンを導入するのではなく、パソコンの中に学校が存在する時代がやってきました。ここではネットのなかの学校について考えてみたいと思います。

※各日 13:00~13:45、13:50~14:35

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時

プラチナ・エイジ大学講座 「国際社会と日本人論」

日本の商人道

Ⅱ 講座概要

相変わらず不祥事が世の中で起こっています。組織風土がなせる業か、人間の弱さ、性なのか、はたまた有史以来からの伝統・習慣なのか、あきれて、しょうがないと思っている人も多いと思います。先人は今日のことを予想したのか、人間の弱さ、本能、煩惱からくる弱点を見通したのか、昔から人間の歩むべき道、商人が歩むべき道、道義を示し、啓蒙をしていました。この商人道シリーズは先例を振り返り、自らの戒めのためにも、先哲の言動を親炙すべく、江戸時代から昭和にかけての先人の教えを振り返る良い機会としての試みをまとめたものです。

Ⅱ 内容

第1回	2009/ 12/1 (火)	武士道と商人道	新渡戸稲造の「武士道」の背景と江戸の武士・商人の倫理観、道徳観について今日 活きているもの、廃れたもの、特に第二次世界大戦後失われたものを取り上げ、再考の是非を考えてみました。(担当：沼倉)
第2回		江戸時代(前期)の商人道	元徳川家の武士で後に出家し仏教思想家になった鈴木正三の教え、天職論、職業倫理について取り上げてみました。また、江戸中期に活躍した、心学者 石田梅岩について今日でも充分通用する顧客志向や商人道を講義や著書から紹介します。(担当：沼倉)
第3回	2009/ 12/22 (火)	江戸時代(後期)の商人道	商人ではなく武士の世界から、商人道を取り上げています。最初は 米沢藩主であった上杉鷹山の倫理観、道徳観、実践と行動に見る企業家精神について述べ、次に江戸末期 幕府の学問所「昌平黌」(昌平坂学問所)の儒官(大学頭)佐藤一斎の教えを最近の総理大臣と外務大臣との逸話をまじえ紹介します。(担当：沼倉)
第4回		内村鑑三の代表的日本人の商人道	代表的日本人のなかの二宮尊徳、中江藤樹について、人としての道、道義、倫理観を中心に何故代表的日本人の中に加わったのか内村鑑三の視点から紐解き論じていきます。(担当：沼倉)
第5回	2010/ 1/12 (火)	江戸の商人気質と環境対策	エコロジーの観点から見た江戸の庶民や商人の生活の智慧、環境への配慮、理に適ったWIN・WINのビジネスの仕組み等事例を挙げて説明しています。(担当：山本)
第6回		明治以降の商人道	渋沢栄一や岩崎弥太郎について、経営哲学、商人道について論語や儒教の教えを例に二人の間の逸話を紹介しながら洞察力の深さを追求します。(担当：秋吉)
第7回	2010/ 1/26 (火)	安岡正篤に見る商人道	平成の年号の発案者と言われる陽明学者で東洋思想家であった安岡正篤が没するまで何故昭和の政界、財界の指南役であったか、その教えは何かを学びます。(担当：沼倉)
第8回		CSR(企業の社会的責任)と商人道	企業統治の土台にあるのは企業倫理、道徳であると思っています。CSR(企業の社会的責任)は企業統治を包含したものと捉え、CSRの観点から商人道を説く試みを論じています。(担当：沼倉)

※2009/12/1(火)、2010/1/12(火)：14:40～15:25、15:30～16:15
2009/12/22(火)、2010/1/26(火)：13:00～13:45、13:50～14:35

問い合わせ先：八洲学園大学エクステンションセンター事務局

電話 045-317-4401 e-mail: u-yue@yashima.ac.jp

電話での対応時間 平日：9時から21時30分、土日祝日：9時から17時